

信楽窯業技術試験場整備基本計画【概要版】

平成 31 年（2019 年）3 月

■ 新たな信楽窯業技術試験場の方向性

1 基本方針

国内外に向けた窯業技術の研究開発・人材育成・交流発信拠点を目指します。

2 目指す姿

○モノづくり支援

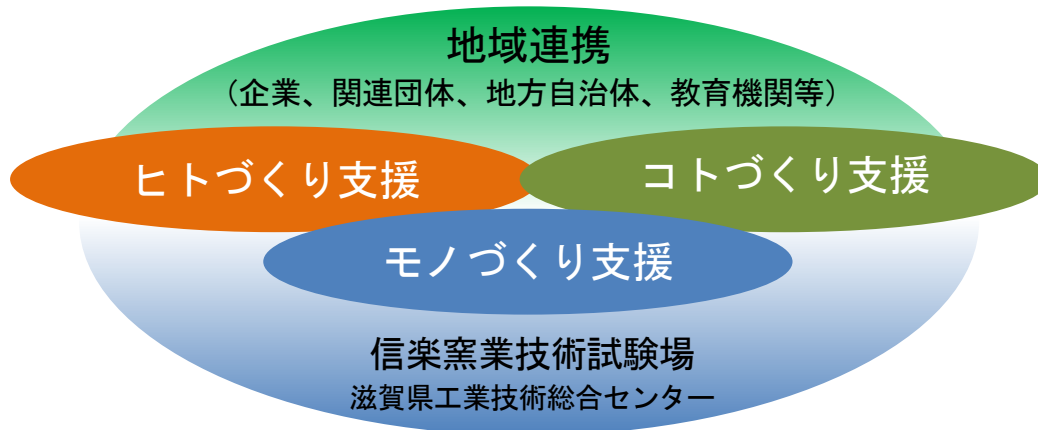
窯業技術を基盤に、国内外から選ばれる品質・機能とデザイン性を備える製品づくりを支援します。

○ヒトづくり支援

技術力とともに、製品の企画開発や販路開拓の能力を備える人材を育てます。

○コトづくり支援

開かれた試験場として、地域の連携交流と信楽焼の魅力発信により、産地の活性化を目指します。



3 信楽窯業技術試験場が担う機能

○モノづくり支援機能

試験場は陶器製品の実生産に必要な装置をすべて備えており、これらの装置を広く一般に開放することにより、産地の試作工場的な役割を果たします。また、分析装置等の利用開放、不良品対策等の技術相談、品質保証のための依頼試験、新素材や新製品の研究開発等の機能も担います。

○ヒトづくり支援機能

試験場の窯業技術者養成研修には、大物・小物ロクロ成型科のほかに、素地釉薬科とデザイン科があり、窯業について総合的に学ぶ産地の後継者を育成します。また、研究会活動等を通じて、商品のプロデュース能力を備えた人材を育てる機能を担います。

○コトづくり支援機能

人々の生活様式が多様化し、消費者の感性に訴える価値を高めて国内外に発信することが求められる時代において、さまざまな産業や学問分野、ひいては市民が交流する場を中心として、製品開発・情報発信が展開される支援機能を試験場の新たな柱として担います。

■ 運営計画

1 運営方針

価値観の多様化した社会に対応するため、工業技術としての窯業とともに、文化的・創造的な陶磁器産業に視点を置いたモノづくり・ヒトづくり・コトづくりを進めます。

- 信楽焼産地のモノづくりを素材開発から商品開発・製造まで一貫支援します。
- 窯業技術者養成研修を核に多様な分野の人材交流を促進し産地の後継者を育てます。
- 国内外に向けた感性に訴える商品開発と販路開拓を地域連携により強力に推進します。
- 試験場が有する技術的資産や産地の取組を市民や観光客に向け積極的に発信します。

2 運営体制

試験場の技術支援機能に、陶芸の森が備える美術館機能および国際交流機能、甲賀市が備える地場産業魅力発信機能を連携させることにより、「陶器のことなら何でもわかる拠点づくり」を目指します。

現在	今後の方向性
<p>現在は、陶磁器デザインとセラミック材料の2部門により、モノづくり支援およびヒトづくり支援機能を担っています。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">信楽窯業技術試験場 陶磁器デザイン部門 セラミック材料部門</div><div style="margin: 0 20px; text-align: center;">モノづくり ヒトづくり</div></div>	<p>今後は、陶芸の森、甲賀市との連携により、モノづくり支援およびヒトづくり支援機能の強化を図るとともに、新たにコトづくり支援機能を担っていきます。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">信楽窯業技術試験場 陶磁器デザイン部門 セラミック材料部門</div><div style="margin: 0 20px; text-align: center;">モノづくり ヒトづくり</div><div style="margin: 0 20px; text-align: center;">コトづくり</div></div> <p style="text-align: center;">◀ 連携 ▶</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">陶芸の森 甲賀市</div></div>

■ 施設整備計画

1 整備方針

- 産地のモノづくりの強みを支える施設整備（モノづくり空間）

地域産原料である長石の粉碎装置や、産地の強みである大物陶製品の焼成が可能なガス窯など、事業者が必要とする試作設備や試験分析装置を備え、作業の動線や効率性に配慮した施設整備を行います。
- モノづくりの醍醐味を伝える施設整備（ヒトづくり空間）

次代を担う学生や窯業を志す若者にモノづくりの楽しさを伝えるとともに、試験場で学ぶ研修生が充実感と緊張感を持って研修に臨めるよう、見学ルートや実習室に工夫を施した施設整備を行います。
- 交流・開発が促進されるオープンな施設整備（コトづくり空間）

間仕切りのない交流空間や展示空間を設えるなど、誰もが来場しやすく、商品開発に向けた交流・開発が促進される施設整備を目指します。
- 信楽焼への関心と好奇心を掻き立てる施設整備（コトづくり空間）

来場者の信楽焼への関心を高め、博物館的な好奇心を掻き立てるため、交流空間の内壁には試験場の収蔵品を設置するなどの工夫を施した整備を目指します。

2 整備用地

信楽観光の玄関口として多くの人々が訪れる地理的優位性を活かし、陶芸の森や甲賀市との連携による機能発揮と新たな取組が期待できる陶芸の森前民有地を整備用地として計画を進めます。

3 施設規模

試験分析機器や試作装置の効率的配置により、現在の延床面積の半分程度まで縮小し、現時点で約1,600m²を想定規模として検討を進めます。

駐車場は、平日の職員と研修生、技術相談や試験分析機器等の利用者の人数を想定した必要台数分を確保します。講習会等の開催時には、陶芸の森の駐車場の共用による効率的運用を行います。

4 敷地利用計画（イメージ）

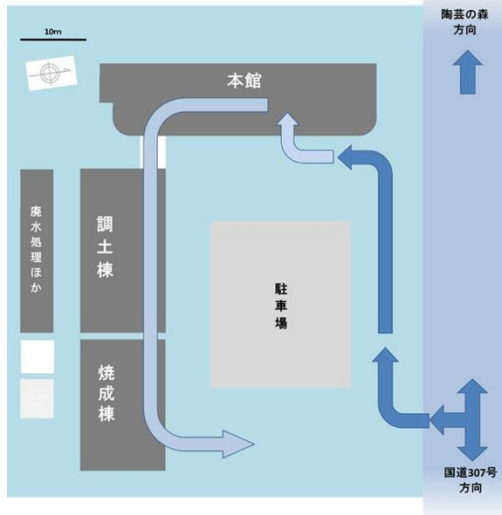
地域連携交流と見学動線、試作研究や研修生の実習、機器利用の作業動線を考慮した敷地内建物レイアウトおよび利用計画とします。今後の設計段階でさらに検討を加え決定します。

5 平面計画（イメージ）

本館 1 階の大半をコトづくり空間の中心とします。1 階部分の実習・試作、原料調整、焼成の空間を連続的に配置し、モノづくり・ヒトづくり空間の動線とします。また本館 2 階を企業などによる機器分析の空間とします。今後の設計段階でさらに検討を加え決定します。



陶芸の森と民有地・整備用地の関係



敷地内建物レイアウトと動線（例）



平面計画とゾーニング（例）

6 断面計画（イメージ）

利用者の作業動線や交流、見学に配慮した断面計画とします。今後の設計段階でさらに検討を加え決定します。



断面計画（例）

■事業計画

1 整備スケジュール

平成 31 年度（2019 年度）より、基本・実施設計を開始し、甲賀市と連携のもと整備用地を取得し、2022 年度の供用開始を目指します。その想定スケジュールを示します。

実施年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
事業内容 [新庁舎]	設計 地質調査	建築工事 工事監理	移設	供用開始
[旧庁舎]			移設	解体 用地交換
整備用地 (甲賀市)	用地取得	甲賀市から借受		用地交換

2 概算事業費

本計画に基づく整備にかかる事業費は、約 9 億 7 千 5 百万円と見込んでいます。ただし、現時点での概算であるため、今後の経費変動や事業の進捗等を踏まえながら、各段階において精査します。

項目	内容	概算事業費（億円）
設計・調査費	基本設計、実施設計、地質調査	約 0.34
建築設備費	建築工事、電気設備、機械設備、工事監理費	約 7.35
移設・解体費	設備機器移設、解体工事	約 2.06
合計		約 9.75